

# 週刊 脱原発関連情報

2011年10月15日 No.6

インターネットをしない人のために

編集・発行責任/853-3321 長崎県新上五島町綱ノ浦郷85-37 歌野 敬

## 現在の安全論争を拒否する

内山 節

哲学者・立教大学大学院教授

### 季刊「地域」秋号（農文協） 『哲学は未来をどう語るか』から抜粋

私は原発が安全なものだとは思っていません。ただ、あまり安全か危険かの論点で原発問題を議論したくないというのが本音です。その論点で議論してしまうと、たとえば「女川原発の一部は破損したけれど、原子炉そのものは無事に停止したから安全だった」とか、「停止した浜岡や福島には想定ミスがあってああいうことになったが、想定をきちんとして対策をとれば安全だ」という議論が必ず出てくる。それに対して、以前から「原発は安全に運転されていても、出ている放射線は無視できない」という議論になってしまいます。これでは泥沼の議論になってしまうと思うのですが、そこに本当の対立点はない。

ですから、危険とはどういうものかをきちんとみておく必要がある。データや実験に基づいて、ある種の安全性が証明できたとしても、それをもって危険でないとはいえない、ということを押さえておかないといけない。

たとえば、高いところに登ったとすると、それは危険な行為であるとわかっている。足を踏み外したら命を落とすかもしれないということを理解している。生まれてはじめて屋根の上に登った子供でも、落ちたら大変ということは理解できるわけで、経験がなくてもわかる。なぜなら私たちは高いところは危険であると人類の誕生以来経験してきたからで、私たちの体が記憶していると考えていい。火に対しても同じで、火はいかに有効かということも知っているし、危ないものであるということも知っている。人間は火と長く付き合ってきたので、有効性と危険性の両方を体が良く知っている。このように、自分自身で判断可能かどうか、「安全」の基準です。

受け売りの話になりますが、1960年代に食品業界を劇的に変えた防腐剤系の添加物がありました。私が子供の頃は豆腐などは日もちがしないのでなべを抱えて豆腐屋さんに行っても

のでしたが、その防腐剤ができて1週間も10日ももつ豆腐がスーパーで売られるようになった。最近では防腐剤を使わずに無菌パックで日もちさせるということもあるようですが、当時としては防腐剤の力で腐らない豆腐は画期的なものでした。豆腐だけでなく、ちくわやかまぼこ、ハム、ソーセージなどいろいろなものが腐らなくなって、流通業界も食品業界も、さらには私たちの食生活をも変えた。

しかし、いくつかの研究者グループが動物実験でその添加物を調べてみると、非常に高い頻度で人の染色体に異常が起こることがわかった。そこで当時の厚生省に対してこれは禁止すべきだと指摘したのですが、門前払いだったそうです。しかし、国立遺伝学研究所のグループがバクテリアに遺伝子に突然変異を起すことを確認したり、発癌性や肝臓内で別の毒性の強い物質に変化する可能性があることが指摘されたりして、10年後、70年代半ばにようやく厚生省は認可を取り消した。この添加物＝AF2は世界の中で日本でしか使われておらず、今でも日本人の死因の第一位が癌であること、中でも胃癌が多いことの遠因になっているという人もいます。

ただし、私がこの食品添加物を「危険だ」と思うのは、そういう専門家のデータが出たからではありません。そもそもこのAF2が認可されたのも、別の専門家の「安全だ」というデータがあったからです。食品添加物が安全化危険かは、食べても判断できないし、匂いでも判断できない。そのこと自体がもう危険であると考えたい。動物実験を何回やっても問題は起きないし、この程度なら使おうということもあるかもしれないが、どんな無害のものでも危険であることには変わりはない。人間が判断できないからです。研究者という専門家がやっている限りは研究の穴もあるわけで、違う角度から研究してみたら実は問題があったということはあるわけですね。

私のように賞味期限はまったく考慮しないという人間は、ひたすら自分の判断力を信じている。だいたい腐ってくれば見ればわかる。次は

触ってみて駄目だとわかる。微妙だなあと感じたらちょっとなめてみる。噛んでみて駄目だったら吐き出してうがいをすればいい。それくらいの抵抗力はありますから。最近は賞味期限を信じる人が多くなったのでずいぶん怪しくはなりましたが、人類はずっと腐敗と付き合ってきたので腐敗を見分ける能力も備わっています。しかし食品添加物は危険を感じる事ができない。われわれの五感では判断できないのです。

**放射性物質についても同じで、一番の問題は人間の五感で判断できないところにあります。ただ、天然の放射線については、人類は長く付き合ってきたので、DNAが壊されたとしてもそれを修復する能力は持っている。ところが修復能力を超えた放射線に被曝した場合、自分の体では判断できない。いろいろな情報を元に大丈夫かどうかを疑い続けるしかない。そこにこそ原子力の危険性がある。安全だというデータが**

**出ているからといって決して安全だと思っはいけない。**

私は十代の終わりぐらいのとき、広島・長崎出身の被爆二世の人たちとつき合いがありました。彼らは両親か、どちらかの親が被曝している。当時はみんな健康で、日常は問題なく学生生活を送っていましたが、年齢の割には疲れやすい。抱えていた不安も大変なもので、いまは健康でも将来はどうなるのか、白血病になるかもしれないし別の病になるかもしれない。結婚してよいかもわからない。結婚して子供を産んでいいかもわからない。すべてがわからないし、結論が出ない。わからないものどうつき合うのか。しかも分からないものが死を伴うかもしれない。たぶん今度の原発問題も、こういうわからないものとのつき合いを余儀なくされていくと思います。

## 本当ふざけた国

MBSラジオ「たね蒔きジャーナル」  
10月11日放送分から

**水野** 今日ではまず除染についてのニュースについて伺いたいと思います。環境省が基本方針を出しました。年間20ミリシーベルト（以下msv）未満の被ばく線量の地域については、2年後、2013年8月の末までに被ばく線量を半減させる方針ですが、これは実現可能なんですか。

**小出** 半減させることはいわゆる居住区に関してはできないことではないと私は思いますが、でもいったい国の行政機関は何を言ってるのだろうなと思います。なぜかといえば、国は国民に1年間に1msv以上の被曝をさせてはいけないと言ってきたはずなんですね。それが20msvを仮に半減させたとしても10msv。自分たちが決めた10倍も人々に被曝を許すというのでしょうか。

**水野** 10msvになれば除染はできたことにするというのが国の方針なのではないのでしょうか。

**小出** はい。ですから、私はおかしいことだと思います。半分になる効果のほとんどは、セシウム134という放射性核種が半減期2年ですので、2年経てば半分に減ってくれるというただそれだけのことです。

**水野** 放っておいても半減期2年で……

**小出** 134の分は当然半分になると。137のほうが減らないけれどもその分を何とか頑張って全体として半分にしようと言ってるだけです。ごくごく限られた生活空間だけのことを言えばできないことはないかもしれないと私は思います。

## 除染に関する基本方針案骨子に関して

### 小出裕章

でも実際には生活空間というのは人々の自宅とかあるいは道路だけではなくて、山もあれば田畑もあるわけですから、実際上はそんなことはできないと私は思います。子どもについては学校や公園など子供たちが多く活動する地域を優先的にやるということでおおよそ60%被曝線量を減少させるといっていますが、20msvを60%減少させたところでmsvですね。なんで子供に対して、今回の福島第一原子力発電所の事故を引き起こしたことに何の責任もない子供に対して、今まで許してきた被曝の8倍ものものを、2年後になってもまだ許すとこの国は言うのですね。

**水野** そしてさらに、年間1msv以下にするべきということですが。これは長期的には目指しましょうというのですよ。

**小出** (笑)。皆さん、考えてください、もう本当ふざけた国だと私は思います。

(中略)

**水野** 汚染された土や瓦礫などの処理について、自分の住んでいる京都市が受け入れる方針だといっています。これについて。

**小出** 私は今、福島第一原子力発電所の事故が起きて、膨大な瓦礫が生じてしまった現実を目の前にすると、福島県だけでそれを処理できるとは思えない。福島県にももちろん子供も住んでいるのです。この番組で言ってきましたけれども、何としても私は子供の被曝を減らしたいと思ってきたわけですし、福島県だけで瓦礫の始末ができない、子供を含めて被曝をさせざるをえないというのであれば、やはり全国で引き

受けるしかないと思います。

**水野** ただですね、京都市にも子供は大勢住んでいますよ。焼却センターで処理するという方針のようですが京都市の子供は守れないじゃないですか。

**小出** はい。ですから私は現在の焼却施設そのまま燃やしていいとは思っていないのです。放射性物質を含んだものを現在の焼却施設で燃やすと、放射性物質が排気の中に出てきてしまうと思いますので、排気系に高性能なフィルターを取り付けるなどして空気中に放射性物質が飛散しないようにするというをまず大前提にしなければいけないと思います。その上で、やはり全国が分担するしかないと思います。

**水野** そのフィルターのお金は誰が出すのかとか、誰がまた取り外して新しいフィルターとりはずして、どうせまたどうせ汚れるでしょう？

**小出** 東京電力に払わしてください。

**水野** 私自身は今度の除染の基本方針の中に、原発事業者が一義的な責任をもって処理する、東電の敷地に持ち込むべきだと。先生がおっしゃる東電の食堂に汚染された食料を持ち込みなさいということと同じに私は東電が責任を持つべきではないでしょうか。

**小出** はい。まずは福島第一原子力発電所の敷地、まあかなりの敷地があるわけですし、現在事故の収束のために大変苦勞してるわけですから、その敷地の全部が使えるわけではないと思いますけれども、その敷地の中に持ち込むというのは当然必要です。福島第二原子力発電所もあります。あそこは、今回の事故はかろうじて悲惨なことにならなかったわけですが、でももう2度と使えないと思いますし、あの敷地を核の墓場にすればいいと思います。

**水野** ただ、そうすると福島第二原発の周辺の方にとったら、なんとか今回大きな事故がまぬがれたのに私らが核のゴミの場所で住まなきゃいけないのかとなりますね。

**小出** そうです。大変難しい問題だとも思いますけれども、放射線というものは何百m、何kmと飛ぶものではありませんので、それなりの手立てをすれば周辺の人が福島第二原発に入れた放射能のゴミから被曝をするという可能性はかなり少なく出来ると私は思います。東電は倒産して私は当然だと思ってるのですけれども、倒産するまでとにかくすべての力を出しつくさるべきだと私は思います。

**水野** 全国のごみ焼却センターで処理した場合、そのごみ焼却センターのまわりの方達はどうか。あるいはごみ焼却センターの作業員の方たちの被曝の可能性もあります。

**小出** もちろんします。ですからそれなりの注意を全てしなければいけません。作業員の方々

<p>チェルノブイリ原発事故後の住民対策に取り組んできたベラルーシの民間の研究機関、ペルラド放射能安全研究所のウラジーミル・バベンコ副所長が12日、東京都内</p>	<p>暫定基準値は200ベクレル。一方、ベラルーシの基準値は10ベクレルで、20倍の差があるという。ベラルーシでは内部被ばくの影響を受けやすい子どもが摂取する食品は37ベクレルと厳しい基準値が定められているが、日本では乳製品を除く食品の暫定基準値は500ベクレルで、子どもに対する特別措置がないことも問題視。「37ベクレルでも子どもに与えるには高すぎる。ゼロに近づけるべきだ」と指摘した。(共同 10・12)</p>
<p>日本の食品基準は甘すぎ ベラルーシ専門家が批判</p>	

が被曝をしないような防御策を講じなければいけませんし、さっき聞いていただいたように周辺に放射性物質が飛び散らないように、フィルター等を新たに設置するというようなことも必要です。さらに燃やそうとなんだらうと放射能が消えるわけではありませんので、灰の中に残ってきた放射能をどうするかという課題が残ってしまいます。

**水野** 灰をどうしたらいいんですか？

**小出** わかりませんが。今私が考えているのは、福島第一原子力発電所にこれから石棺を作る必要があります。そ地下にバリアーを作る必要もあり、膨大なコンクリートが要ります。そのコンクリートの母材に使うのがいいと思います。

**水野** 灰をコンクリートに母材にしていく。でもそうしたら最初汚染された土や瓦礫を各自自治体にまず運ぶときにも、周辺の道路ですっと被曝するでしょうし、灰を戻すにもまた被曝するでしょう？日本列島そこらじゅう被曝ですよ。

**小出** それはもうすでに放射能が日本列島中に降り注いでいる。あるいは世界中に降り注いでいるわけですし、これから食物という形で何を行ってもどうせ日本中汚れるのです。この瓦礫の問題だけを取り上げてこれが大変だというのは当たらないと思います。

### 『デモと広場の自由』のための共同声明・記者会見の巻

雨宮処凛 『マガジン9』10月5日)

9月29日、私は有楽町の「日本外国特派員協会」にいた。「『デモと広場の自由』のための共同

声明」の記者会見をするためだ。この日の記者会見に出席したのは評論家の柄谷行人氏、慶応大学教授の小熊英二氏、一橋大教授の鶴飼哲氏、そして私。なんとも豪華なメンバーがこうして一堂に会した理由は、9月11日の「原発やめろデモ!!!!」で12人が逮捕されるという異常事態に抗議してのものだ。(略)

この共同声明で特に私が好きなのは、今回の原発事故を受け「全国各地にデモが澎湃(ほうはい)と起こってきたことは、日本社会の混乱ではなく、成熟度を示すものです」という点だ。その通りで、今まで、デモをすることが「特殊なこと」だと思われていたこと自体がおかしいのだ。「デモをする権利」は当たり前だけど誰にでもある。デモが始まる72時間前までに出発地の最寄りの警察署に申請すればいいだけだ。それだけで、私たちは「意思表示」ができるのだ。憲法21条で保障された、民主主義の基本的権利である。

しかし、そんなことをこの国のどれだけの人が知っているだろうか？ 少なくとも私自身、これほど気軽にできるものだとはメーデーなどで自分自身がデモの実行委員となるまで知らなかった。イラク反戦デモ以前は、デモと言えば「特殊な人たちの特殊な手段」だとすら、思っていた。どんなに素晴らしい権利でも、知られていなければ存在しないことと同じだ。声明には、「民衆の意思表示の手段であるデモの権利を擁護します」という一文もある。デモの権利は、その国の民主主義の度数を図るものだと思う。独裁政権下では、デモをただで射殺されることだってあるだろう。それを思えば、この権利は手放してはいけないものだし、「脱原発デモ潰し」にしか見えない大量逮捕など、決して許してはいけないことだと思うのだ。

さて、そんなことから「『デモと広場の自由』のための共同声明」が出され、私自身も呼びかけ人の一人となり、この日の会見に参加したわけである。(略) 最初に発言した柄谷氏は、「日本でデモが少なくなってきたことと、これほど地震が多い国に54基も原発が作られたことには深い関係があります。それは、原発に反対するという意思表示ができなくなってきたことです」。その背景にあることとして柄谷氏が挙げたのは、労働組合の弱体化や社会党の消滅、そして90年代に新自由主義体制が確立したことなど。そのことと、原発が大量に作られ続けてきたことにはやはり大きな関係があることを指摘し、こう続けたのだった。「地震のあと、外国人は日本人の冷静さを賞賛しました。しかし、同時に不可解でもあったはずです。どうして日本人は抗議しないのか、怒らないのか。しかし、3・11の原発震災以降、デモが始まりまし

た。私は単に原発に反対するだけでなく、個人がその意志をデモで表現することが重要だと思います。その意味でようやく日本人が意思表示を始めたのだと思います。日本でやっとデモが始まったことに希望を見いだしています。そのきっかけを作ったのは素人の乱の若い人たちです。彼らは新しいデモの形式を作り出した。私は彼らに感謝しています」

隣でその言葉を聞きながら、なんだか顔がニヤけるのを抑えることができなかった。だって、なんかすごく頭のいい人に「デモをやってる」ってことだけで大掛かりに褒められてるみたいなものではないか！ もうこの5年くらい散々デモをやってきたが、けなされたり馬鹿にされたり、果ては近い人にも「好きだよなー」と呆れられた経験はあっても褒められたことなど一度もない。それがなんと、柄谷行人氏という、おそらく私には難解すぎて読めない本を書く知識人にもものすごく「評価」されているのである。デモやってるってことだけで。(略)

これからは、私がデモに行きまくってることを馬鹿にされたら、「そんな私の存在こそがこの国の民主主義の成熟度を表すものなのだ」と反論しよう。しかも、デモにはダイエット効果もある。3・11以降、私は12回のデモに参加したが、炎天下の中歩き続け、躍り続けるデモなどに行きまくったおかげでなんの苦もなく5キロの減量に成功。デモは美容と健康にも効果抜群なのである。(略) 私は基本的に人間不信なので、政府とかほとんどの政治家とかをまったく信じてないし信じるつもりもない。だからこそおかしいことには「おかしい」と声を上げ続けたいし、それこそがこの社会に生きる一員としての最低限の「自己責任」だと思うのだ。そう、自己責任って、他人を責めて追いつめる言葉ではなく、この社会に生きる大人として、自分がどれほど責任を果たしているか、自らに問う言葉ではないのだろうか。(略)

さて、この日の会見で述べた通り、「原発やめろデモ」会議では、今回の大量逮捕について、日弁連に人権救済の申し立てをした。おかしいことにおかしい、と声を上げている人は、実はたくさんいるのである。「原発やめろデモ」には今までのべ7万人近くが参加しているわけだし、この日記者会見に登場した知識人たちも今回の逮捕を「おかしい」と思い、それを伝えるために声明を出し、わざわざ海外メディアの前で記者会見まで開いた。もちろん、そんな行動は1円にもならない。そして私は、そんな人たちがとてもカッコいいと思うのだ。私には、「こんなふうになりたいな」と思う魅力的な「大人」がたくさんいる。それはとても、幸せなことだと思うのだ。